

研究分野	資源管理	部名	資源開発部
研究課題名	資源回復計画作成等推進事業（イカナゴ）		
予算区分	漁業調整費（強い水産業づくり交付金・国1/2）		
試験研究実施年度・研究期間	H.17～		
担当	大水 理晴		
協力・分担関係	水産振興課、水産庁		

〈目的〉

本事業では、我が国周辺水域において緊急に資源の回復が必要な魚種について、全国又は地域レベルで資源回復のための計画を策定し、そのための取組みについて総合的に支援するものである。2006年に策定されたイカナゴの資源回復計画を進めるのに必要な調査を実施する。なお、調査は陸奥湾～津軽海峡西部漁場、及び太平洋（六ヶ所泊～東通村尻労）沿岸漁場を対象とした。

〈試験研究方法〉

- 稚仔分布調査：2～4月毎月1回、津軽海峡西部～陸奥湾の海域11調査地点において、試験船青鵬丸によるボンゴネット往復傾斜曳を行い、イカナゴ稚仔の分布密度を推定した。
- 漁獲量調査：県内主要漁協において、日別の詳細な漁獲量と金額を調べた。
- 成魚の分布調査：夏季に津軽海峡海域において、試験船青鵬丸によるオッタートロール海底曳きを行い、イカナゴ成魚の分布調査を調べた。また、東通村尻労、白糖沖及び六ヶ所村泊沖においてイカナゴの夏眠場調査を実施した。

〈結果と概要・要約〉

2007年のイカナゴ漁獲量は佐井村～三厩村の漁獲量が64.6トンであり、1961年から2007年までの漁獲量と比較して、4番目に低い漁獲量であった（図1）。また、同年におけるボンゴネット水深0～50m往復傾斜曳によるイカナゴ仔魚分布密度は、平成19年の平均分布密度は12個体/100m³（平成18年は30個体/100m³）であった（図2、3）。津軽海峡におけるイカナゴ成魚分布調査では1尾、太平洋東通村尻労～六ヶ所泊沖合における夏眠場調査では尻労沖で夏眠中のイカナゴが7尾捕獲された（表1、2）。

〈主要成果の具体的なデータ〉

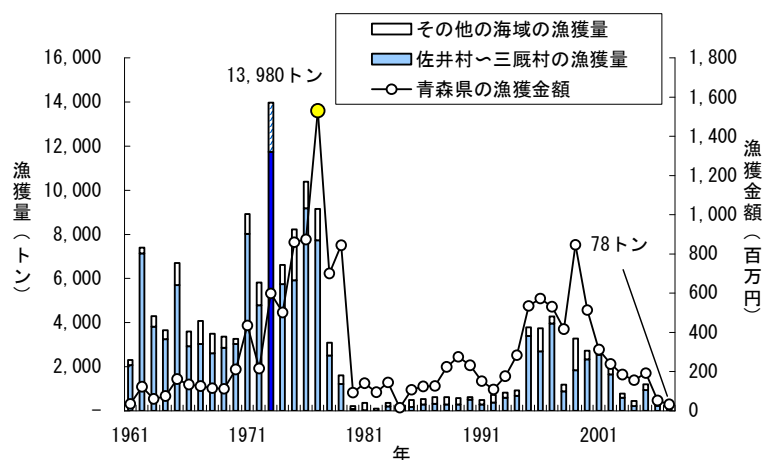


図1 青森県におけるイカナゴ漁獲量と漁獲金額の経年変化

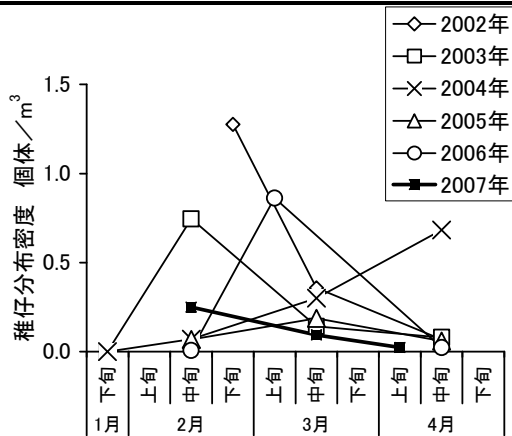


図2 ポンゴネットによる

稚子分布密度の経時変化
(津軽海峡～陸奥湾)

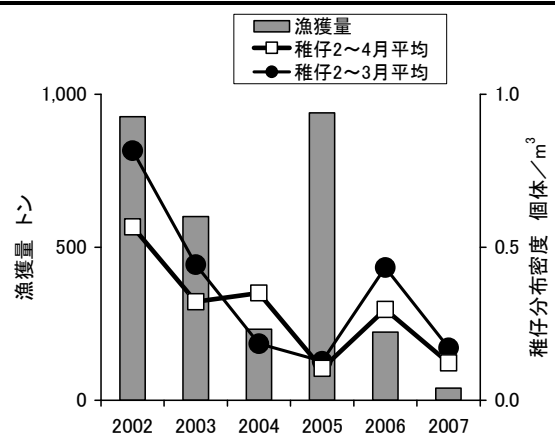


図3 ポンゴネットによる

稚子分布密度と漁獲量の経時変化
(津軽海峡～陸奥湾)

表1 オッタートロール調査によるイカナゴの採集個体数と採集密度 (津軽海峡～陸奥湾)

調査地点	年月日	水深m	曳網時間(分)	曳網面積(m ²)	個体数	個体数/10分	個体数/1000m ²
1	2007/9/11	135	20	18,433	0	0.0	0.0
2	2007/9/11	165	20	40,814	0	0.0	0.0
3	2007/9/11	185	20	18,028	1	0.5	0.1
4	2007/9/11	170	20	22,711	0	0.0	0.0
5	2007/9/12	140	30	15,765	0	0.0	0.0
6	2007/9/12	58.1	25	22,070	0	0.0	0.0
7	2007/9/13	86	20	21,820	0	0.0	0.0
8	2007/9/13	246	20	15,788	0	0.0	0.0

表2 イカナゴ夏眠場調査 (東通村尻労 2007/9/27)

調査地点	水深(m)	尾数(尾)	全長(mm)	尾叉長(mm)	体重(g)
ST. 1	45m	1	236	225	57.63
ST. 2	54m	0	—	—	—
ST. 3	47m	1	107	102	439
ST. 4	54m	0	—	—	—
ST. 5	10m	5	98	92	2.91
			99	94	2.98
			101	104	3.34
			113	107	4.31
			118	111	4.71

* 漁法：文鎮曳き、曳網時間10分、船速度2～3ノット

〈今後の問題点〉

太平洋沿岸域の東通村尻労～六ヶ所村泊沖でイカナゴの夏眠状態が良く解っていない。

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様。

〈結果の発表・活用状況等〉

平成19年度イカナゴ漁業検討会で調査結果を発表。

平成19年度第2回陸奥湾地区、太平洋地区漁業者協議会で調査結果を発表。